大人が変われば子供も変わる
こころの東京革命

平成26年度 子供見守り活動事例集
平成 27 年 3 月発行

編集・発行　東京都青少年・治安対策本部　総合対策部　安全・安心まちづくり課
〒163-8001
東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話　03-5388-2282
ホームページ　http://www.bouhan.metro.tokyo.jp/

平成26年度

子供見守り活動事例集

いいなぁ安心 東京都 青少年・治安対策本部

東京都

はじめに

13歳未満の子供の連れ去り件数は、平成20年以降増加傾向にあり、平成26年は９年ぶりに100件を超えました。都内においても子供への声かけやつきまとい等が433件発生し、前年よりも約５割増加しました。昨年夏には、瑞穂町で飴玉をもらって食べた小学女児が倒れるという事件が発生するなど、子供を見守る重要性はますます高まっています。

子供が犯罪に遭う頻度を減らし、安全安心に暮らすことができるようにするためには、より多くの目で子供を見守り、空間・時間の両面で隙間をなくし、犯罪が起こりにくい環境を整備することが必要です。

通学路における子供の安全確保には、防犯だけでなく、交通事故や災害など様々な危険への対処も必要です。このため、町会や自治会、商店会などの地域団体のほか、学校や役所、警察、消防等の行政機関、防犯ボランティア団体等が協力連携して空間的な隙間をなくすことが求められます。これらの取組は日々継続して行うことが大切で、途切れてしまうとそこに時間的な隙間が生じ、犯罪が起こりやすくなります。各団体が相互に信頼関係を築き、活動内容を理解し合うことで、より効果的な取組を進めることが重要です。また、「団体活動まではちょっと」と考える人は、日常生活の中で「～しながら」無理なく子供見守りにつながる活動を行うこともできます。

皆様におかれましては、子供たちが安全で安心して暮らすことができますよう、都内各地域の子供見守り活動について一層充実していただくことをお願いいたします。

安全・安心まちづくりを
推進するマスコットキャラクター
みまもりぃぬ

平成27年３月

東京都青少年・治安対策本部長
河　合　　潔

もくじ

レッツトライ！ 子供見守り活動！ …… 3
大東京防犯ネットワーク …… 4

現在の活動をレベルアップ

PTA　子供110番の家等への駆込み訓練 …… 5
PTA・児童館　ハロウィンを活用した「子供110番の家」への駆込みイベント …… 7
〈中野区〉セイフティ・ハロウィン実行委員会
町会・自治会等　地域の危険箇所改善モデル事業 …… 9
町会・自治会等　通学路安全マップによる子供の安全確保 …… 11
〈府中市〉南白糸台小学校とその児童・PTA・自治会

これから活動をスタート

町会　山王町会防犯パトロール隊 …… 13
地区協議会　上ノ原まちづくりの会 …… 15
防犯ボランティア団体　聖ヶ丘子ども・おとしより見守り隊 …… 17
企業　わが街企業パトロール隊 …… 19
大学生　明治薬科大学マナーアップ委員会 …… 21
始めよう！ 続けよう!! プラス防犯!!! …… 23

★ ★ ★

子供への犯罪傾向 …… 24
子供見守り活動のヒント＜索引＞ …… 25

レッツトライ！ 子供見守り活動！

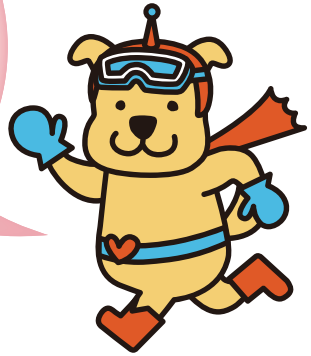
今日、都内各地で、町会や自治会、学校・PTA、役所、警察のほか防犯ボランティアなどの団体によって、登下校時の見守りやパトロールなどの活動が行われています。こうした活動は、犯罪をしようとする者にとって嫌がらせとなり、取組が増えるほど犯罪がしにくくなります（「攻める防犯」（東京未来大学出口教授が提唱））。

これらの活動は、他の団体と協力連携することにより、更に効果を高めることができます。また、個人でも下校時間帯の花の水やりや買い物など、日常生活の中で無理なく取り組むことができます。

子供見守り活動は、地道で子供への犯罪抑止効果が見えにくい取組ですが、子供の安全にとても役立っています。

無理なく、できることを、できるときに、をモットーに取り組みましょう！

本事例集では、都内で実際に取り組まれている活動事例や豊富なアイデア等を紹介しています！



大東京防犯ネットワーク

東京都では、防犯ボランティアを応援するポータルサイト「大東京防犯ネットワーク」により、さまざまな防犯情報を提供しています。ぜひご覧ください！

子供110番の家等への駆込み訓練

東京都は、子供の危険回避能力や「子供110番の家」協力者の対応力を高めるため、地域主導による参加体験型の駆込み訓練を推進しています。

概　要

① 通学路で子供が見知らぬ不審者役の大人から声を掛けられたときの対応についてロールプレイングする。
② しつこいつきまといから逃れるため、近くの子供110番の家やコンビニへ駆け込む。
③「子供110番の家」協力者は、子供を保護し警察へ通報する。

活動レシピを参考に取り組んでみましょう！

活動レシピ ～PTAが実施する場合～

〈準　備〉

3か月前

① PTA校外委員会で合意形成
実施日時やエリア、対象学年、規模等、大まかな案を各委員へ示し、合意を得る
＊趣旨や見込まれる成果、他の事例等を丁寧に説明することがポイント

② スタッフの確保
実施規模に応じたスタッフを確保　＊不審者役には他校のPTAが望ましい

③ 実施計画の作成
スタッフ間で協議・調整して、より詳細な実施計画を作成
＊具体的な計画提示により、関係者への協力依頼を円滑に

④ 学校への相談
副校長や安全教育担当の教員へ相談、協力依頼
・教員や児童の参加（実施体制の確保、保護者への通知等）
・体育館等の施設利用、学校備品の供与
・教育委員会との連絡調整
・町会や自治会など地域団体への情報提供、協力依頼

⑤ 警察への相談
路上の安全確保や防犯講話などの相談、協力依頼

⑥ 経費の試算、確保
チラシの作成、防犯グッズ等の購入など　＊役所の助成金を確認しましょう

2か月前

① 駆込み先協力者の確保
日頃、PTAが子供110番の家へ協力依頼している場合は、学校周辺の実施エリアの中から候補者リストを作成し、各家庭へ協力依頼
（町会等が管理している場合は、町会長等へ相談の上、各家庭へ協力依頼）

② 参加者の確保（児童）
土曜日の午後実施のため、保護者へ参加の意向確認
1グループ4～6名として数グループの人数を確保

2週間前

① 全体打合せ
スタッフや関係者全員が集まり、当日の進行や訓練の詳細を確認
＊進行シナリオや実施マニュアル等を用意

② 広報
回覧板等により、地域住民へ駆込み訓練を周知
＊事前予告により、警察への通報を回避

〈訓練当日〉

1　はじまりの会

① 防犯講話
警察官やスクールサポーターによるミニ講話

② 訓練の説明
スタッフによる訓練の模擬実演
＊あらかじめ見せることが効果的

③ 子供110番の家のシンボルマークの紹介
地域固有のステッカーやコンビニのポスター等

④ 防犯グッズの試用、大声訓練
ホイッスルや防犯ブザーの説明、練習と大声出し
＊本番では上手にできないことも

⑤ グループ打合せ
大人と子供で顔合わせをし、役割や訓練の流れを確認

2　駆込み訓練

準備が整い次第、グループごとに出発（交通安全に注意）

① グループリーダーの大人は協力者宅を訪問し、**訓練開始を告げる**
＊近隣住民に向け、拡声器を使って周知

② 協力者宅から20～30m付近の路上で、下校中の子供が**不審者役の大人から声をかけられ、つきまとわれる**
（声かけ例：「●●まで案内してもらえる？」）

③ 不審者役から逃れるように、大声で「助けて」と叫んだり、防犯ブザーを鳴らし**危険をアピールしながら、協力者宅へ駆け込む**
＊思うように門扉が開かないこともしばしば

④ 協力者は適切に子供を保護し、事情を聴く。その後110番通報の模擬体験
＊落ち着いて警官から聞かれたことを答える

⑤ グループリーダーは、不審者対応や駆込みを体験した**子供から感想を聞き、助言する**

3　おわりの会

① 子供や協力者などの感想
② 主催者や警察の講評

大東京ネットワークに今年度実施した訓練の様子やマニュアルを掲載しています♪

中野区　セイフティ・ハロウィン実行委員会

ハロウィンを活用した「子供110番の家」への駆込みイベント

都内では、子供110番の家等への駆込み訓練と、子供のお楽しみイベントを“コラボレーション”した取組が行われています。その例をご紹介します！

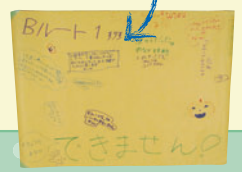
活動のきっかけ

「子供110番の家にたくさん登録してくれたけれど、子供たちはまちなかで怖い思いをした時、知らない人の家に駆け込めるのかしら?」「子供たちの安全安心を地域で見守りたい」。こうしたPTAと児童館の共通の思いから、「セイフティ・ハロウィン」はスタート。PTAと児童館の共同運営で「やるならば楽しく！真面目に！」をモットーにハロウィンの楽しさと駆込み体験を一緒にすることとしました。

活動のようす

今年は、80人の子供と40人の大人（PTA・元PTA・地域の大人や児童館職員）、24軒の協力家庭や施設という規模で開催。

大人も子供も仮装をして学校の体育館に集合。寸劇形式で子供を惹きつける安全セミナーを行った後、**予防力向上のための「よく見る」「よく聞く」と、対処力向上のための「伝える」「逃げる」**、相手との距離を保つ“魔法のステッキ”（1m程度の紙の棒）の使い方を教わりました。



まち探検では、1班10人程度のグループに分かれ、大人と一緒に「子供110番の家」へ向かいます。途中、公園で見知らぬ大人から道を尋ねられ、「一緒に行って」と誘われると、子供はキッパリと断り、「子供110番の家」を訪問してそのことを伝えます。

「子供110番の家」の協力者は子供の保護と聞き取りを行い、実行委員会が準備したお菓子を子供へ渡します。その後、子供は会場に戻り、感想や「今日の学び」を模造紙に書いて、体験したことを振り返ります。

イベント成功のヒント

ハロウィンは大人も子供も楽しむことができるイベント。大人も派手な衣装をまとい、参加者全員が仮装します。またイベントストーリーも、子供の関心を惹きつける物語仕立てとするなど、毎年、工夫をこらして楽しい雰囲気づくりをしています。

◀ PTA会長もお姫様に♫

取組の成果

イベントを通じて予防力や対処力を習得

子供は、見知らぬ人に声をかけられたとき、相手との距離を保つことと、はっきり断ることを学びます。また1年前は知らない人の家のインターホンを押す勇気がなかった子供も、翌年にはきちんとできるようになりました。

さらに、イベントを通じて協力者と子供は顔見知りになり、スタッフの大人と声を交わす子供も増えました。参加経験のある高学年の子供は、自ら低学年の面倒を見るという子供同士の「つながり」もできました。

キーパーソン

最初は、どのようにすれば地域の方から協力が得られるのか悩みました。そんなとき、歴代のPTA会長や役員から協力いただける地域の方を紹介していただいたり、若宮懇談会ゴリラーズ（児童館運営を考える地域の保護者の集まり）の方々が手をあげてくださいました。今年で6回目を迎え、地域に根付いてきたことをとても嬉しく思います。

▲ 元PTA会長の西原さん

実行委員会を重ねたことで、地域に顔見知りが増え、笑顔も増えました。立場や仕事が違っても『子供の安全のために』とPTAや地域の皆さんと一つになれるという充実感を味わっています。

▲ 若宮児童館長の篠原さん

セイフティ・ハロウィンはまだまだ発展途上！今後も子供と地域の大人との「つながり」を強めることで地域の防犯力や子供見守りの機運を高めていきます。

地域の危険箇所改善モデル事業

子供が安全安心に生活できる地域づくりをするためには、地域の危険箇所点検と環境改善が必要です。このため東京都は、町会や自治会、防犯ボランティア団体等が地域を点検し、ソフト・ハード両面で改善することを促進しています。

準　備

町会や自治会などの地域の会合で、危険箇所改善の意義・効果等をメンバーに伝え、実施に向けた同意を得ます。
その後、調査の役割分担や準備を進めます。

フィールドワーク

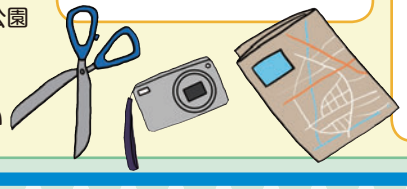
調査は、道路と公園に分かれ、それぞれ危険箇所や改善の手掛かりを見つけます。必要に応じて写真を撮り、その場所を地図にメモします。
（撮影時はプライバシーに配慮しましょう！）

●いつ？
児童の下校時間帯

●どこで？
主に通学路や公園

●何人で？
6～8名くらい

※改善の手掛かり
管理されていない花壇など、手を加えることで改善が見込める状態にあるもの



【用意するもの】
地図（縮尺1/3000位が目安）及び公園の図面＜役所で入手できる場合あり＞・模造紙（地図の拡大コピー可）・付せん（3色程度）・カメラ・文房具（のり、はさみ、多色ペンなど）・腕章など目印となるもの・調査シート

道　路

○みまもり量調査
歩行者、自転車、庭の手入れや掃除など路上における子供の見守り量を調査

○物的状況調査
道路や沿道の見通し、防犯カメラや子供110番の家の有無等を調査

○管理状況調査
落書きやごみのポイ捨て等を調査

公　園

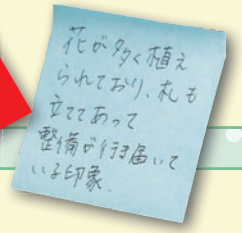
○設計調査
樹木等により周囲からの視線が届きにくくなっていないか、公園の周囲に人の目があるか等を調査

○利用調査
来園者の状況や公園内のごみのポイ捨て、落書き、放置自転車などを調査

マップ作成

●調査結果や写真等をもとにマップを作成
●メンバー間で地域課題を共有

調査した道路や公園の拡大図（模造紙）に、改善の手掛かりや危険箇所の写真、その理由を記入した付せんを貼り付けます。
（例えば、危険なところは赤、安全なところは青など）



地域改善計画の作成

●マップに示された課題の改善策をそれぞれ検討

●改修工事等のハード対策は時間や経費を要するので、地域団体によるパトロールの強化や清掃、登下校見守りなどを優先的に検討

●その後、他団体と連携協力する取組、役所や警察への提案を検討

●時期についても短期、中期、長期に分けて検討

短期：１年以内に実施
中期：３年以内に実施
長期：５年以上を目途に実施

良い場所を更に伸ばす取組を検討するのもいいですよ！

環境改善の実践

大東京防犯ネットワークにガイドブックを掲載しています♪

●短期の取組は、担当を決め、早期実現に努めましょう。

●中期と長期の取組は、他団体や行政機関と連絡を取り、必要に応じて、柔軟に計画を見直しましょう。

●年１回程度、環境改善の取組状況を地元の役所へ報告し、必要な情報交換をするなど、より効果的な改善の取組につなげましょう。

府中市　南白糸台小学校とその児童・PTA・自治会

通学路安全マップによる子供の安全確保

◀ 平成18年から安全マップづくりの指導を行っている石坂さん

地域と小学校との協力連携による、地域の危険箇所点検と改善の好事例を紹介します！

活動のきっかけ

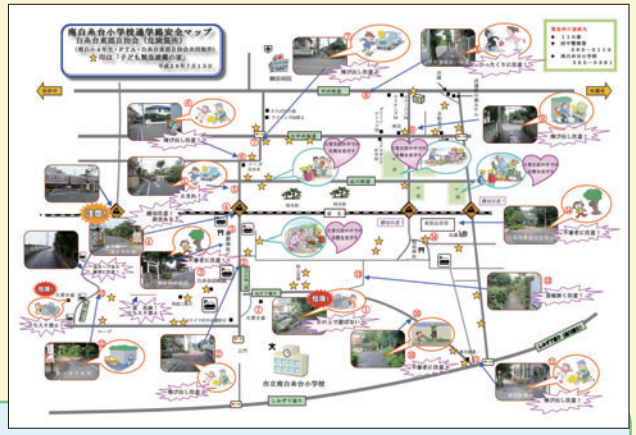
子供の安全を守るためには、地域が一つになることが必要。そこで子供の安全をテーマに、地域が一つになるよう、大人と子供が一緒に通学路の危険箇所点検に取り組んでいます。

活動のようす

子供とPTA、学校、自治会が一緒に、通学路上の危険箇所や注意すべきポイントのほか、安全な場所を点検し、マップを作成します。

（授業の一環で実施）

このマップには、防犯のほか、交通安全や防災の視点も盛り込みます。完成したマップは、小学校区のすべての家庭へ配付するほか、学校の避難訓練や防犯教室で活用、地域の催し等でも紹介しています。



＜参加者の声＞

- インタビューを通じて、**地域の人と顔なじみ**になりました（子供）
- **子供の目線で**地域を眺めることがポイントです（大人）
- 子供が地域の人と**笑顔であいさつ**をするようになりました（大人）

取組の成果

マップの活用により、道にはみ出ている樹木の剪定など危険箇所の改善に役立てられたほか、親子でマップを見ながらパトロールする姿も見られるようになりました。また地域の人も学校に関心を持ち、学校行事への参加が増えました。さらに、周辺の小学校も安全マップづくりに取り組むようになりました。

活動のながれ

1 地域の大人が集まり、危険箇所点検の事前会議を開催

2 子供（4年生）も授業で事前学習

3 大人と子供で一緒にフィールドワーク

地域の人へインタビュー

4 調査結果をPTA、地域の方、3年生へ発表
○×クイズで全員参加型の発表会を開催

活動のポイント

● 目的の明確化

参加する大人や子供には「何のために」という目的意識をもってもらうことが大切！そこで安全マップづくりでは、以下の2点を重視しています。

★ **地域ぐるみで子供の安全安心を守る**

★ **子供自身が危険を予測し、回避する能力を向上させる**

● 日常生活の中で、自然な見守りを推進

子供とPTA、学校、自治会が顔見知りになることで、子供を見かけたら自然に声をかける、気にかける。そうしたコミュニティを目指しています。

● 定期的な情報更新

年一回危険箇所点検を行い、マップの情報を更新します。PTAは子供の発表内容も踏まえ、地区ごとの取組にいかしています。

● 学校との連携

継続的に取り組むためには、学校と連携し授業に採り入れてもらうことが有効。また、学校・PTA・コミュニティスクール委員を軸に地域（自治会・老人会・学校関係団体）・行政（教育委員会・警察・消防署・市の関連部署）による地域懇談会を年一回開き、安全マップ、防災などについて話し合っています。

取組を進める上での課題（苦労話）とその解決策

危険箇所点検では、様々な関係者の協力を得ることがとても大変でした。頻繁に学区の自治会役員や学校の先生等と面談し、取組の趣旨や重要性を繰り返し伝え、ようやく理解を得ることができました。

大田区　山王町会防犯パトロール隊

地域や学校と一体となった子供見守り

◉ 活動のきっかけ

平成17年末に広島県や栃木県で発生した女児誘拐殺人事件を受け、文科省は通学路の安全点検を実施。山王町会も防犯活動に協力するため、パトロール隊を結成しました。現在も山王小学校や警察署、区役所と良好な関係を築いて活動中！（平成26年12月現在20名）

活動のようす

○活動日

山王小学校の登校日

○時間

午後2時～4時

○場所

- 小学校校門（2か所）
- 通学路上の危険な場所（見通しの悪い交差点、狭い道など3か所）

▲活動の拠点、町会事務所

▲子供たちの下校に付き添いながらパトロール

○メンバー

町会役員、地域ボランティア（10名程度／回、1か所2名）

○活動内容

- 事件や事故が起こりやすい場所での見守りや声かけ
- 子供見守りポイントまでのパトロール（10分程度）

警察署との連携

① 大森警察署主催の「まちかど防犯隊リーダー研修会」を受講。子供への声かけ事案が多い場所や時間帯などを学び、活動に役立てています。

② 署員と一緒に合同パトロールを実施しています。

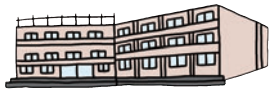
学校との連携

① 4月は学校の依頼を受け、一年生の集団下校に付き添い、グループを間違えた児童を自宅まで送り届けることもしています。

② 2月は学校の給食会に招かれ、一年生から感謝のことばが贈られます。

③ PTAが作成する安全マップや月別下校時間表を学校からもらい、活動に役立てています。

活動レシピ ～子供見守りの取組例～



- 山王町会エリアは約3,000世帯と多く、児童の通学エリアも広い
- 学区内には細くて見通しの悪い道路が多く、交通量も多い

1 活動計画

毎月末、小学校から翌月分の下校時間表を入手し、活動計画を作成してメンバーに周知

2 集合場所

一年生の下校時間10分前に、小学校の校門に集合

3 必要な道具

帽子、ジャンパー、ホイッスル

▲主要な5か所を分担して見守ります

4 他団体との連携

- PTAや区（警備会社）、警察署（地域安全センター）と協働・分担することにより、子供見守りの目を増やし、隙間をなくす効果的な活動を実施
- PTA作成の安全マップを参考に、事件や事故が起こりやすい場所を分担し、必要に応じて見直しのための話合い

活動を通じて

▲副会長の増田さん（左）と吉村さん（右）

パトロールを始めた頃は、子供たちとの関係がぎこちなかったのですが、今では私服で歩いているときも「こんにちは」、「どこ行くの」などと気軽に声をかけあう関係が築けています。

POINT

ジャンパーは目立つ赤色！とても存在感があり、遠くからでもはっきりわかります。子供たちへ「大人が見守っている」ことを伝えることができ、メンバー間の連帯意識や防犯効果も大幅にアップ！

調布市　上ノ原まちづくりの会

子供たちが安全安心して通学できる“上ノ原方式”

◉ 活動のきっかけ

上ノ原まちづくりの会（上ノ原小学校地区協議会）が設立された平成16年頃は子供に対する痴漢が月10件以上発生。このため朝のパトロールや旗振り、夕方のパトロールなどを始めました。（平成26年12月現在約90名）

活動のようす〈防犯・防災・交通安全部〉

○活動日

月曜日から金曜日までの毎日

○時間

朝（午前7時半～8時半）、昼（午後3時～4時半）、夕方（午後5時～6時半）

○場所

上ノ原小学校の通学路

○メンバー

2～4名／回

公園にのぼり旗を設置し防犯力をアップ!!

○活動内容

- 朝と昼はパトロールと登下校の見守り
- 夕方は下校時間帯のワンワンパトロールと買い物時のパトロール

活動の成果

活動を開始してから、不審者情報は激減。さらに空き巣被害も減り、地域の防犯意識も高まりました。

こうした活動が評価され、平成21年には警視総監感謝状をいただきました。

▲今年は警視庁交通部長から感謝状をいただきました

世代交代

主要メンバーの長原さんは、退職後、町中を散歩中に能勢副会長から粘り強くスカウトされ5年前に加入。

日頃の活動などを通じて、防犯の知識や活動のノウハウを習得しています。

平成20年には、「登校時間帯における地域の防犯活動が見たい」と、インドネシア国家警察が視察に訪れました。

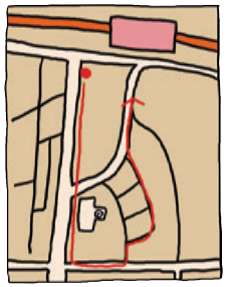
活動継続のコツ

高齢化によりメンバーが減少する中、活動ポイントを絞り、1回当たりの人数を抑えることで、無理なく活動しています。

活動レシピ ～子供見守りの取組例（野ヶ谷地区）～

- 年度初めに能勢副会長が、曜日別、時間帯別の活動予定表をメンバーに配付
- メンバーはこれに従い、以下の活動を実施

1 午前7時30分



①集合（スーパーの駐車場）
②帽子、ジャンパーを着用（合図灯、旗、ホイッスルを携行）
③2名1組で公園に寄りながら学校へ向けパトロール
（防犯効果を高めるため、日々コースを変更）
④途中で他の2名のメンバーも合流

2 午前8時

①複数の方角が見渡せる大きな交差点で4名のメンバーが安全に横断誘導（「おはよう」と明るく声かけをします）
②この地域は複数の学校が近接しているため、登校する子供も地区全域で3,000人超！
③この交差点は車の交通量が多いので、目配りと気配り、集中力が必要

3 午前8時30分

すべての子供が安全に登校し、ホッと一息。

活動を通じて

定年退職時は、地域に知り合いがいませんでしたが、まちのことを考え活動しているうちに、顔見知りの輪ができ、友人も増えました。子供たちから感謝のことばを書いたカードをもらったときはとても嬉しかったです。（能勢副会長）

能勢副会長（中央）と奥様の由緋子さん（左）長原さん（右）

POINT

毎日続けることで、子供と顔見知りになります。いつもと様子が違う子供へは声かけのフレーズを工夫します。するとより親近感が増し、子供の安心感もアップします。

多摩市　聖ヶ丘子ども・おとしより見守り隊

学校や地域に根ざした子供見守り活動

◉ 活動のきっかけ

地元の防犯協会に所属する亜厂（あかり）さんと内多さんは、平成24年度に都の子供見守りボランティアリーダー育成講座を受講。ここで学んだことを地域にいかそうと、平成25年6月に「聖ヶ丘子ども・おとしより見守り隊」を結成。7月から活動を開始しました。（平成26年11月現在30名）

活動のようす

○ 下校時の見守り（聖ヶ丘小学校周辺）
○ パトロール（小学校周辺など）
○ 花壇の植栽（公園や緑地など）

団体の設立／他団体との連携

① メンバー集め

“できることをできるときに”をモットーに、聖ヶ丘1～5丁目の町会に「一緒にボランティアしませんか」と声をかけ、有志30名を集めました。

② 学校との連携

団体の設立に当たり、小学校の校長先生にも発起人に加わっていただき、児童への紹介や校内の花壇づくりなど、学校との連携もスムーズに進めています。

③ 地域とのつながり

子供会や老人会、ボランティアも一緒に下校時の見守りを行っています。

※ その他、子供会と一緒に単身の高齢者宅を訪問しています。

のぼり旗には活動に協賛する団体名が並んでいます

用意するもの

帽子、ジャンパー、合図灯、剪定ばさみ、花の苗、ゴミ袋、清掃トング、のぼり旗

予算（初年度）

○収入　助成金　約20万円
（「多摩まちづくりファンド」）
○支出　物品購入　約20万円
（花の苗やゴミ袋は市が支給）

活動レシピ ～子供見守りなどの取組例～

- メンバーは、帽子とジャンパーを着用（毎回15名程度が参加）
- 学校から下校時間一覧表を入手し、メンバーへ活動予定表を配付

1 下校時の見守り

①月曜日から金曜日まで、下校時間帯（午後2～3時ごろ）に学校周辺の通学路に立って見守りを実施
（約30m間隔でメンバーが立ち、隙間のない見守りを実現！）
②毎日「気をつけて帰ってね」と子供へ声かけすることで顔見知りの関係に

◀ 子供たちからも元気なあいさつが返ってきます

2 パトロール（環境美化）

①月1～2回、夕方にゴミ拾いや低木の剪定などをしながら、通学路や公園、住宅街をパトロール
②ハンドマイクを使い、「こちらは見守り隊です。暗くなる前に家に帰りましょう！」と子供たちへ呼びかけ

3 花壇の植栽

①夏から秋にかけ、小学校や公園、緑地の一部に花植え
②通学路にある花壇では、通学時間帯に水やりをしながら子供の見守り〈プラス防犯〉
③落葉拾いや低木の剪定も実施

★低木の剪定
誘拐されやすい小学一年生の身長に合わせて剪定
歩道の見通しをよくすることで、子供の防犯力をアップ！（講座情報の活用）

▲ 隊長の亜厂さん（左）
副隊長の内多さん（右）

今後の展望

子供見守り活動により、子供の交通事故や空き巣も減少。あいさつや環境美化の機運も高まりました。今も良い街ですが、さらに住みやすい街にしたいです！

POINT

亜厂隊長や内多副隊長は、都や地元で開催される防犯講座に参加し、そこで習得した知識を効果的に実践。積極的な行動力で周囲の人々から信頼を得ています！

品川区　わが街企業パトロール隊

防犯活動を通じた企業の社会貢献！

◉ 活動のきっかけ

平成17年に大井防犯協会が青パトを1台購入。しかし、地元町会だけではパトロールのシフトを組めないため、大井警察署とともに、地元企業へ協力を依頼。「社会貢献になるし、やってみよう」と考える企業が防犯協会に加入し、わが街企業パトロール隊を結成。平成18年に活動をスタート。
（平成26年12月現在103社）

活動のようす

○活動日
主に平日（各社1回／月程度）

○時間
小学校の登下校時間帯や午前中など
（90～120分程度）

○場所
公園や学校周辺を中心に警察署管内全域

○メンバー
警察署管内の企業

○活動内容
・青パトによる地域巡回が可能な企業（30社程度）は月1回程度、裏通りの細い道を中心にパトロール
・この他警察署や防犯協会の啓発イベントやキャンペーン、夜間パトロールに参加

▲ ミニパトタイプの車両で防犯力をアップ!!

防犯CSR

企業の社会貢献活動には様々な取組がありますが、本書では防犯をテーマとした取組を防犯CSRと呼んでいます。企業にも、地域社会の一員として積極的な参加が期待されます。

※CSR（Corporate Social Responsibilityの略）
企業が社会の一員として果たすべき様々な責任

活動レシピ ～青色防犯パトロールの取組例～

1 乗務員として申請

青パト活動が可能な企業は、大井警察署主催のパトロール講習会に従業員を参加させ、専門知識や心構えを習得。青色防犯パトロールカーの乗務員として申請・登録

2 活動日の申請

警察署へ希望する活動日時を申請

3 パトロールの実施

乗務員は防犯ベストを着用して2名1組でパトロール

パトロールのポイント

❶ 安全運転でゆっくり走り、通学路や公園等に異常がないかチェックします。（裏通りの方が空き巣やひったくりが発生しやすく、不審者も潜みやすいため、スピードを落として車の窓から様子を見ます。場所によっては、時間をおいて再び見回ります。）
❷ 振込め詐欺やひったくりの被害防止メッセージを広報しながら街中を巡回。防犯効果を向上させます。
❸ 公園や学校周辺では、車から降り徒歩でパトロールすることも。

◀ 公園内もしっかりとパトロールします

4 次回の活動日申請

パトロールの終了時に、翌月分の活動日を申請
パトロールを希望する企業が多いので、複数の候補日を用意

活動に参加して

子供たちからの「ありがとう」の声が明日の活力に

青パト活動中、子供たちに会うと手を振る、あいさつを交わすというコミュニケーションが生まれました。地域の方からも感謝の声をいただき、参加してよかったという気持ちになります。

（いすゞ自動車株式会社）

清瀬市　明治薬科大学マナーアップ委員会（防犯ボランティア）

学生のマナーアップ＆地域とのタイアップ

◉ 活動のきっかけ

平成24年11月、学生のマナー向上を目的に、教職員と学生の有志によるマナーアップ委員会を発足。その後、東村山警察署の依頼を受け、平成25年4月防犯ボランティア活動をスタート！（平成26年10月現在40名）

活動のようす

薬学部の学生は6年間通学する上、学業が忙しく、月2、3回の不定期な活動ですが、スマホ等を活用して上手に情報交換。コアメンバーを中心に毎回10名程度が参加しています。

当初は、あいさつ運動だけでしたが、次第に地域活動へと広がり、清掃活動と合わせて近隣小学校周辺での子供見守りもするようになりました。

① あいさつ運動

朝、正門などで登校する学生にあいさつをします。

② 清掃活動

大学周辺や最寄駅までの道で清掃活動を行います。

③ 地域行事などへの参加

商工会へ連絡し、地域のお祭りに参加します。また、地元警察署の防犯キャンペーンにも積極的に参加します。

④ 子供見守り

近隣小学校や大学の正門付近で清掃をしながら「おかえり」などと、児童へ声かけをします。

▲「おはようございます」と朝から元気な声が響きます

▲ 痴漢撲滅キャンペーンに参加

◀ オリジナルTシャツを作製し、活動時に着用♪

地域もWIN　学生もWIN

あいさつ運動を始めてから、友人に「活動見たよ」と言われたり、ツイッターでつぶやかれることが増えました。地域のため、子供のために取り組むことが学生のマナーアップにもつながっています。

活動レシピ ～子供見守りの取組例～

- 大学の敷地に沿った道が小学校の通学路であることから、下校時間帯に清掃活動！「プラス防犯」の取組を実践
- 学生は授業の空き時間を利用して自主的に参加

1 メンバー集め

大学ホームページや学内ポスター掲示

2 メンバーへの連絡

メールやライン、ツイッターなどを活用

3 リーダーのこころがけ

自主的な参加を促す雰囲気づくりが大切

4 道具の準備

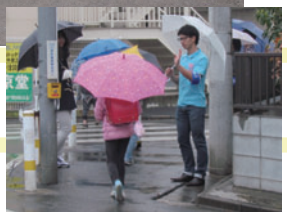
清掃用具は大学（委員会の教職員）が提供

5 小学校との連携

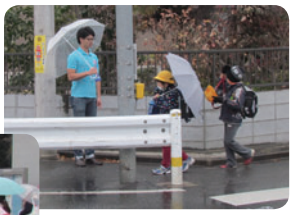
活動前に学校と連絡を取り、副校長先生に活動の趣旨や内容を相談（清瀬第四小学校は「学校だより」に活動内容を掲載）

6 地元住民との連携

一年生下校時見守り隊や保護者、地域のボランティアとともに子供見守りを実施。地域の方へは学生から進んであいさつをします。



▲ 子供たちに手を振って声かけ



地域の方々へあいさつ ▶

▲ 委員長の海野さん

今後の展望

委員会の発足当初は、専ら学内でのマナーアップを目的に活動していましたが、今では大学も地域の一員として、地元住民の方とも交流し、地域に根ざす活動の輪を広げています。

POINT

多くの防犯ボランティア団体が抱える悩みは、高齢化とメンバー不足。柔軟な発想力と学生ならではの行動力を地域の活動にいかしましょう！

始めよう！ 続けよう!! プラス防犯!!!

プラス防犯とは、日頃の生活行動を防犯の意識を持って行うことで、見守りの目を増やし、空間的時間的なすき間をなくすことにより、地域の防犯力を高めようとする取組です。例えば子供が犯罪被害に遭いやすい通学時間帯に、花の水やりや庭いじり、犬の散歩をすることはとても効果的な取組です。団体でも個人でも容易に、無理なく継続して行うことができるのが特徴です。

プラス防犯の取組例

取組事例 ＜品川区：ワタナベジム防犯パトロール隊＞

ワタナベボクシングジムでは、週に数回のロードワークに防犯の視点をプラス！選手たちは、「防犯パトロール隊」と書かれたタスキを着けて街中を走っています。

日頃の練習の中で無理なく取り組み、しかも走る時間やコースが選手によって異なるため、地域の防犯力は更にアップしています！

▲ まちを巡回します

▲ タスキは区が支給

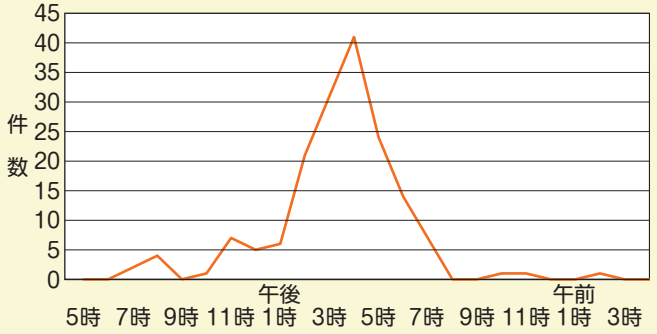
▲ ジムのみなさん

子供への犯罪傾向

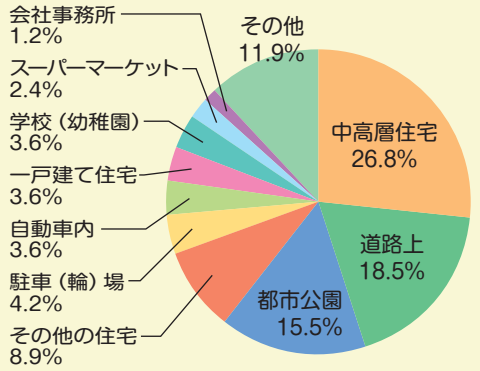
都内では13歳未満の子供に対する性犯罪（強姦、強制わいせつ）も発生しています。時間別、場所別の発生状況等（平成26年中）を以下に示しますので、日々の活動の参考としてください。
（※グラフ構成比の数値は四捨五入しているため、内訳の合計が100%にならないことがあります。）

○ 時間別発生状況

13歳未満の子供に対する性犯罪の約80％は、午後２時から午後７時までの下校時間帯に発生しています。

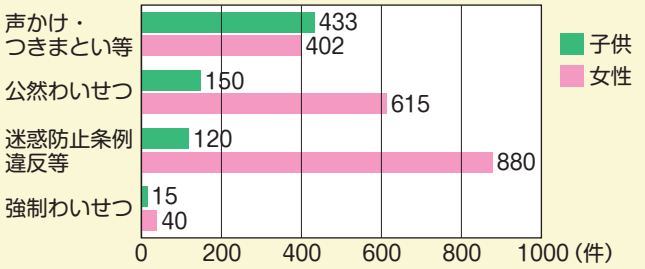


○ 場所別発生状況



住宅（一戸建て・中高層・その他の住宅）が全体の約40%を占め、次いで道路上、都市公園が多くなっています。

○ 子供や女性に対する声かけ・つきまとい等の前兆事案の発生状況



平成26年中の子供や女性に対する声かけ・つきまとい等の前兆事案に関する報告件数は2,655件で、平成25年と比べると427件増加しました。

〈本ページの統計は、警視庁生活安全総務課　集計〉

子供見守り活動のヒント<索引>

これまで事例集に掲載した30事例をタイプ別に整理しました。
日頃の活動の参考としてください。

活動の活性化

活動継続や仲間づくりの工夫

★還暦野球倶楽部オールドスターズ
（23年度・p16-17）
★馬橋ご近所付き合い広目隊
（23年度・p22-23）
★高井戸東地区防犯パトロール隊
（24年度・p8-9）
★和泉ピースプラスワン
（24年度・p22-23）
★明大前ピースメーカーズ
（25年度・p22-23）

ワンワンパトロール

犬の散歩をしながら子供の見守り

★新高円寺わんわんパトロール隊
（23年度・p10-11）
★牛込ワンワンパトロール隊
（24年度・p10-11）

環境美化

落書き消しによる防犯力アップ

★柏木地区協議会
（25年度・p10-11）

花植え活動

植栽を通じた子供の見守り

★NPO法人ささえ手〈グリーンバルーンプロジェクト〉
（23年度・p6-7）
★花畑地区前通り町会
（25年度・p6-7）

子供110番の家等への駆込み体験

子供の危機回避能力を高める取組

★中野区西町町会子供と共に進む会
（23年度・p12-13）
★学園東町・子ども見守り隊
（25年度・p8-9）
★セイフティ・ハロウィン実行委員会
（26年度・p7-8）

危険箇所の点検・改善

子供が安全・安心に暮らせる地域づくり

★NPO法人ささえ手〈高松地域会議〉
（25年度・p12-13）
★南白糸台小学校とその児童・PTA・自治会
（26年度・p11-12）

小学校との連携

小学校と円滑に連携した取組

★山王町会防犯パトロール隊
（26年度・p13-14）
★聖ヶ丘子ども・おとしより見守り隊
（26年度・p17-18）

事業者の防犯活動

地域社会の一員としての防犯活動

★わが街企業パトロール隊
（26年度・p19-20）
★ワタナベジム防犯パトロール隊
（26年度・p23）

学生ボランティア

若い力による子供の見守り

★明星大学防犯ボランティア隊（MCAT）
（23年度・p14-15）
★練馬ピーポーズ・練馬工業高校
（24年度・p16-17）
★明治薬科大学マナーアップ委員会
（26年度・p21-22）

登校時の見守り

ユニークな見守り活動

★和田三丁目西町会
（24年度・p12-13）
★鈴木孝雄さん ★橋本豊明さん
（25年度・p17）
★上ノ原まちづくりの会
（26年度・p15-16）

地域団体との連携

行事を通じて顔見知りを増やす取組

★四谷地区青少年育成委員会
（23年度・p8-9）
★子ども見守りチャレンジ事業実行委員会
（24年度・p6-7）

子供の居場所づくり

世代間交流を活かした居場所づくりの取組

★“がきんちょ”ファミリー
（24年度・p14-15）
★下北沢・コーデ騎士団
（25年度・p14-15）

平成23年度から平成25年度までの子供見守り活動事例集は、
「大東京防犯ネットワーク」でご覧いただけます。